この度、西荻窪にあります「画廊跡地」にて、金藤みなみ・小林太陽共同企画による展覧会「金藤みなみのじゃじゃ馬ならし」を開催いたします。

本展覧会は、シェイクスピアの喜劇「じゃじゃ馬ならし」をモチーフとした「金藤みなみのじゃじゃ馬ならし」の小説・関連映像作品を中心とした展示です。企画の金藤は本展覧会について以下のように記しています。

「じゃじゃ馬ならしが有名である理由に、英国演劇史のみならず多くの劇に影響を与えた点と、ミソジニー的解釈によって多くの議論を巻き起こした点が挙げられるでしょう。昨今、ジェンダーイコールを中心とした様々な議論が活発化しています。私は私なりに、ジェンダーへの問いを投げかけたいと思います。厚みのある議論の展開の１つとして、本作品群の展開を楽しんでいただけましたらと思います。」

本展覧会には、金藤の表題作に加えて、能登の民話をモチーフとした金藤による新作パフォーマンス「白羽の矢」をはじめ、4人の作家による作品が出品される予定です。出品作家は金藤みなみ、小林太陽、ユササビ（堺友里）、Artemisiaの4名です。

金藤みなみは、88年生のアーティスト、観光コンシェルジュです。衣装家・小道具家としてキャリアをスタートし、消費によって削られる装いやコンプレックスを動機に、パフォーマンス、ビデオインスタレーション、マスク制作、小説執筆、刺繍制作で活動しています。渋家メンバー、新芸術校２期上級コース修了など、様々なコミュニティで活動の幅を広げる金藤の作品は、皮肉の中にあるカタルシスに定評があります。

本展覧会の企画・運営、また会場である「画廊跡地」の住人でもある小林太陽は、95年東京都生まれの映像作家です。小林は、作家自身と他者の関係性を出発点に据えた映像作品を制作しています。

ユササビは、88年徳島県生まれのアーティスト。2018年には小金井アートスポットシャトー２Fにて、個展「ピンク魔術」を開催、東京「パープルタウンでパープリスム」に参加し、高い評価を受けています。

Artemisiaは、植物や鉱物(化石,天然石)を使ったアクセサリーと、魔女の軟膏作りをテーマにしたボードゲームがあるお店。「魔女」と「ゲーム性」および完成度に惚れ込んだ金藤が展覧会への参加を呼びかけました。

また、展覧会会期中にはジェンダーや愛に関する選書カフェ「ブックカフェ ディープリーインラブ」を併設します。ぜひ選書された本を片手に、展覧会と対話を楽しむひとときをお楽しみください。

インフォメーション

「金藤みなみのじゃじゃ馬ならし」
企画　金藤みなみ・小林太陽（画廊跡地）
作家　金藤みなみ、小林太陽、ユササビ（堺友里）、Artemisia
日程　2019年 5月1日（水・祝）〜8日（水・祝）
時間　15:00〜21:00
場所　画廊跡地（旧・中央本線画廊）（東京都杉並区上荻４−６−６）

金藤みなみによるパフォーマンス「白羽の矢」
日時　5月2日（木・祝）および 7日（火・祝）
時間　各日15:00、17:00、19:00、21:00より

同時開催
「Book cafe deeply, in love」　（ブックカフェ ディープリーインラブ）
選書者　金藤みなみ、斎藤はぢめ 、マーガレット、ユササビ（堺友里）、和田唯奈、他（敬称略）

左上: 金藤みなみ　左下: 小林太陽　右上: ユササビ　右下: Artemisia